

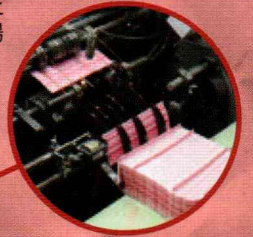
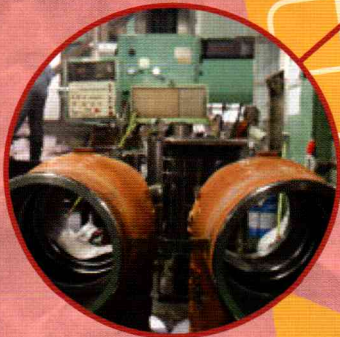
# 大正

あんなものから  
こんなものまで  
つくっています

# ものづくり

# MAP

- ① 大中工業
- ② 三立電器工業
- ③ 大阪鋼圧
- ④ 南齒車製作所
- ⑤ ウツエバルブ
- ⑥ フィル
- ⑦ 紀洋木材
- ⑧ ジェイパック
- ⑨ コメック





大正区を支える

# ものづくりの現場

Vol.4

昭和7年(1932)に発足して以来、大正区は「ものづくりの街」だ。まわりを見渡せば、海と川に囲まれた豊かな水運。

歴史をたどれば、名だたる自動車工場に造船所、貯木場に鉄鋼所が拠点を置いた。

そして今も、近代大阪産業の記憶を受け継ぐ企業が大正区を支えている。

熱気たちこめる現場と、ものづくりに生きる人々に会いに行ってみよう。

※工場見学ご希望の方は、大正区役所(☎06-43394199)までご連絡を

## 溶断

日本のものづくりを影で支える「溶断三兄弟」



### 1 大中工業

「小さい時から工場が遊び場で、よく職人さんに『危ないぞ!』と怒られてました」と笑うのは、取締役の山本雅章さんだ。雅章さんは三兄弟の末弟で、上のお兄さん二人が社長と常務を務める。大中工業が提供するサービスは鉄板の「溶断」。ガスで真っ赤に熱した鉄に高圧酸素を吹きかけると、ケーキのクリームのように溶けた鉄が吹き飛び、思い思いの形に切断できる。切った鉄の素材を元に、自動車の部品メーカーなどが金型を製作する。

「分厚い鉄を切るにはコツがあります。鉄の色やガスの音を注意深く見て聞いて切らないと、切断面が汚くなってしまいます」。熟練した9人の現場の職人さんの中には勤続42年という大ベテランもいる。「先代はよく『早い上手い安い』がうちの売りと言っていました。短納期できれいな製品を作るのがモットーです」。

鉄とともに大正で育った三兄弟が、抜群のチームワークで日本のものづくりを支えていく。

●大正区三軒家東2-11-23  
☎06-6553-3733



切断したい部分をガストーチで溶かし、高圧ガスを吹きかけて溶断していく。



## 鋼板

鋼板を作り続けて60年  
大正工業会の重鎮企業



### 3 大阪鋼圧

昭和29年(1954)創業の同社、現社長の稗田英紀さんは、大正工業会の会長を10年以上にわたり務める。毎年区内の高校から社員を採用する、地元密着企業でもある。

大阪鋼圧の作る製品は「鋼板」だ。まるでトイレペーパーのように何重にも鉄が巻かれた重さ最大25トンもある円筒形の素材を、巨大なローラーで引き延ばし、歪みを取り、切断して、オーダー通りの寸法の鋼板に成形していく。鉄内部の「内部応力」をきちんと取らないと製品に歪みが出るため、見守る工員は細心の注意を払う。

「うちの強みは13ミリの厚い鋼板も加工できることと高い品質です。熟練の検査員がわずか0.03ミリの疵も見逃さない、万全の検査体制を整えています」と言うのは入社15年目の総務部・稗田芳久さん。鉄の一番の敵は結露。あっという間にサビのため、寒暖の差が激しい季節は大変だそう。

出荷された鋼板は機械などの金属製のチェーン、建設機械、建物の骨組み、鋼製の家具などに姿を変え、私たちの暮らしを支える。

●大正区泉尾7-1-11 ☎06-6554-0320 <http://www.kowaz.co.jp>



工場に設置された温度計。鉄にサビをもたらす湿気は大敵だ。

### 2 三立電器工業

三立電器工業が製造・販売するのは、プロ用の電気溶接器具。社長の藤本昌巳さんは「300アンペアもの電流が流れる溶接機器は、万が一感電したら即死する可能性があります。そのため、JIS規格および労働安全衛生法による規定があり、それに適合した安全な溶接棒ホルダやケーブルジョイントなど各種製品を生産しています」と語る。建築、造船、橋梁メーカーなどが主なユーザーで、三立電器工業の業界シェアは国内で60%を占める。

藤本社長は機械好きで、工場内のいくつかの工作機械も自作。「日本橋の電気屋で配線を教えてもらいながら、社内のものづくりが好きな連中と一緒に作りました」。自慢の施設は昨年改装した宿直部屋だ。ホテルのようにきれいな部屋の壁には、大画面テレビと映画のDVDがずらりと並ぶ。「せっかく入社してくれたんだから、社員には楽しんで働いてもらいたい」という藤本社長。サポートするのは息子で営業部の剛司さん。「自分の代には溶接業界以外の分野でも製品開発をしたい」と話してくれた。

●大正区泉尾6-5-53  
☎06-6552-1501  
<http://sanritsu-e.com>



3,450坪もある広い敷地で、溶接器のホルダーなどを製作している。

国内の溶接器具の6割を作る社員思いの町工場

## 溶接機器







戦艦武蔵にも製品を納めた  
国内屈指のバルブメーカー

## バルブ

### 5 ウツエバルブ

応 接室に飾られた、全長1.5メートルの迫力ある「戦艦武蔵」の金属模型。昔ウツエバルブにいた社員が手作りしたものだ。同社は戦艦武蔵に製品を納入した歴史を誇る、日本有数のバルブメーカー。片手に乗るサイズから人が数人ぐくれる大きさまで各種バルブを取り揃える。「戦前は造船所が中心でしたが、今は日本全国の発電所とプラントメーカーが主な顧客です。国内原子力第一号の敦賀発電所をはじめ、日本のほぼすべての事業用発電所にうちのバルブが入っていると思ってもらって間違いありません」(技術部長の植田浩央さん)。

高温・高圧の液体気体が流れるバルブに万が一のことがあれば大事故につながるため、何より安全を重視する。「この頃はコスト削減のため海外から資材を調達する会社も多いですが、うちは絶対に国内資材で製品を作ります。それが信頼につながっていますね」。



工場の一部には、昭和の歴史を彷彿させる木造トラス構造がそのまま残っている。

●大正区北村2-1-13  
☎06-6552-3161  
<http://www.utsue-valve.co.jp>

### 4 南歯車製作所

昭和23年(1948)、大正区で創業した南歯車製作所は、長い軸の付いた歯車や歯車から派生したスプラインという加工で、抜群の実績と技術を持つ会社だ。太さ10~400ミリ、長さ7000ミリ程度まで、オーダーに応じて加工する。加工業者の少ない傘歯車も自社加工できる。

「長さ2000ミリ以上の極細スプラインを加工できる会社は、全国でもほとんどないですよ」と胸を張るのは三代目社長の南仁さん。「町工場って暗い雰囲気のところが多いので、うちはみんなが明るく元気に働き、地域に無くてはならない会社になりたい」と語る熱血漢だ。

売上の約半分は同業他社からの注文で、「長い歯車とスプラインのことなら南さん」と日々依頼が舞い込む。「相談が多いのは、産業機械の破損した歯車部品の復元ですね。図面が残ってなくても一から計測して作り直します」。

南社長の最近のテーマは「人を育てること」。12名の従業員と、セミナーなどで勉強しながら楽しくやりがいのある「全員経営」の町工場作りを進める。

●港区弁天6-4-31 ☎06-6576-2521  
<http://m-haguruma.sakura.ne.jp>



## 歯車部品



「職人の手による汎用機にしかできない価値を追求しています」と語る南社長。



港の広い敷地には、出荷を待つ木材が整然と積まれている。



### 7 紀洋木材

マンションやビルなどの建築に使われる木材を始め、土木仮設用木材、梱包用木材、その他プラスチックから鉄まで色々な材料を扱う紀洋木材。「木のぬくもりを通じて、夢と希望を持てる幸せな企業を目指す」という企業理念を掲げ、年間を通じてソフトボール大会や社員旅行、地域の人とのバーベキューなどイベントも盛んに実施。大正区のものづくりフェスタにも積極的に協力をする。

社長の桑原健郎さんは中高等学校と陸上部の短距離選手だったスポーツマンで、関西ではトップクラスの選手だった。運動一家で育ち、なんとお母さんはハードルで昭和27年(1952)のヘルシンキ五輪に出場したという。「母には負けませんが(笑)、根が体育会系なので、社員には目標を持って自分の分野で力を発揮するようと呼びかけています。時間厳守、約束を守るといった当たり前のことをきっちりやるのが仕事では大切ですね」と語る。

●大正区小林西1-16-2 ☎06-6552-6391 <http://www.kiyolumber.co.jp>

仕事の基本を重視する  
爽やかな体育会系企業

## 建築用木材

### 6 フィル

2015年10月に大正区小林西の港にできた、輸入壁紙の専門店「WALPA」。美術館やブランドショップに見えるこの店は、東京・銀座などに5店舗を運営するフィルの本社を兼ねる。大正駅から直通の専用バスを走らせ、広い店内では定期的に「壁紙貼りワークショップ」を開催。店舗の前には小さな公園を作り、家族連れが集まる。

「住宅のリノベーションが流行っていますが、多くの方は業者に任せっぱなし。自分で壁紙を変えると空間が劇的に変わり、自分の家をもっと好きになる。人類みな自由で壁紙を貼り変えて、笑顔あふれる世界にしたい」と語る濱本廣一社長は、元壁紙職人。毎日、白い壁紙を貼り続けるのに飽き飽きしていた17年前、ヨーロッパの美しい壁紙の存在を知ったことがきっかけで、前身となるネットショップを創業した。いまやDIY界で最も注目される企業の一つとなった。高校時代を過ごした大正区から、壁紙で世界を変えていく。

●大正区小林西1-15-12  
☎050-3538-8903  
<http://walpa.jp>



昨年できた旗艦店には個人客だけでなく内装のプロも集まる。

壁紙で世界を変える  
大正区最注目ベンチャー



## 輸入壁紙



## 冷凍米飯食品



**KOMECC 株式会社 コメック**  
**大阪工場 見学記念**  
**2016年 1月 26日**

釜焚きのおいしさに自信  
 冷凍ご飯のパイオニア

## 9 コメック

お米を使った冷凍食品を製造するコメックは、味の素のグループ会社だ。コンビニやスーパーの冷凍食品売り場に並ぶ五目チャーハン、エビピラフなどを一日に約75トン(お茶碗に換算して約50万杯分)生産しており、これは国内で販売される味の素ブランドの冷凍米飯の約半分に相当する。

「冷凍米飯って、バラバラで使いやすいですね。実は、このお米を一粒ずつ冷凍する技術は、当社が開発したものです」と語るのは総務グループ長の瀬戸慶太郎さん。炊飯については日本の伝統製法にこだわり、大きな丸い釜で丁寧に炊き上げた、ふっくらとしたおいしい米飯製品を市場に供給している。

近年ニュースで食品への異物混入が問題となっているが、コメックではそうしたトラブルを事前に100%防ぐため、万全の体制をとる。「取引先の原料の原料まで遡って確認し、エビの殻はすべて目視でチェック。社員が工場では着用するユニフォームも、ICタグで管理しているんです」。



スーパーやコンビニの売場に並ぶ人気商品の多くをここで作っている。

●大正区平尾1-3-29  
 ☎06-6553-1121  
<http://www.ffa.ajinomoto.com/>

## 8 ジェイパック

大手デパートの紙袋や企業オリジナルの封筒、水道やガスのバルブに取り付ける荷札の製作を手掛けるのが(有)ジェイパックだ。本社1Fの工場では1分間に200枚ものスピードで流れてくる封筒を、一枚ずつ女性スタッフが目視でチェックする。「印刷や折りに不備がないか、この速さで正確に検品できるようにするまでは、3年はかかりますね」(課長の山本誠さん)。

親会社の此花紙工は、2年前にベトナムのホーチミンにも工場を設立。グループ全体で月産400万枚もの紙袋等を生産する。紙袋の業界にも安い海外製品が入ってきているが、品質に不安があるため、とくに高級感が求められる化粧品の手提げ袋などはジェイパックに加工を頼む会社が多いそう。封筒に関しては「セールやキャンペーン用に、朝にオーダーが入ってその日のうちに仕上げたい、なんて言われることもあります。お客さんのニーズに合わせて、短期で高品質の袋を納品できるのがうちの強みです」。



●大正区小林東2-6-25  
 ☎06-4394-5223  
<http://www.konohana.co.jp>

## 紙袋

ベテランスタッフが作る  
 紙袋は、大阪随一の品質



スタッフの多くも会社の近くに住む大正区民だ。

## 大正区の“現場”を大公開。 ものづくりの迫力を体感できる 仕組みぞくぞく。

子どもたちに「ものづくり」の迫力と格好良さを知ってもらおうと、様々なジャンルの工場が大正区役所に出張する「ものづくりフェスタ」。大人たちは知恵をめぐらし、ゲームなどを通して、子どもたちに自慢の技術や製品の面白さを伝えるべく頑張ってきました。その甲斐あって、当日はおおよそ1,000人もの親子連れが訪れるビッグイベントに。企業がチームを組むことで団結力も強くなり、今年は第4回の実施を迎えます。

一方、昨年実現した「オープンファクトリー」は、「ものづくりフェスタ」の枠を飛び出し、工場見学ができるというもの。2日間にわたり、大正アイランドに点在する工場を、渡船などを使って観光スポットと一緒に巡るツアーでした。普段はなかなか見学できない場所が一斉開放されるとあって、参加した17企業の現場にはおおよそ190人が足を運びました。

見る側も見せる側も、大正区が「ものづくりの街」だと再認識できるイベントが増えてきています。さらにパワーアップする今年こそ、ものづくりの迫力と格好良さを体感してみたいかがでしょう。

